



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録 対象：沖縄プログラム第2陣（米国）

1. プログラム概要

米国から高校生及び引率者 25 名が 2019 年 12 月 18 日～12 月 25 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：25 名

【訪問地】

東京都、沖縄県

2. 日程

12/18(水)	【来日】
12/19(木)	【オリエンテーション】 【講義】日本語・日本文化講座 戸叶 万里 氏 東京都から沖縄県に移動
12/20(金)	【学校交流】沖縄県立開邦高等学校 【ホームステイ対面式】
12/21(土)	【ホームステイ】
12/22(日)	【ホームステイ歓送会】 【視察】沖縄県立平和祈念資料館・戦争体験講話・平和祈念公園 【文化体験】エイサー体験
12/23(月)	【ワークショップ（報告会準備）】 沖縄県から東京都へ移動
12/24(火)	【視察】パナソニックセンター東京 【視察】江戸東京博物館 【視察】浅草寺・仲見世
12/25(水)	【成果報告会】 【離日】

3. プログラム記録写真



12/19【講義】

日本語・日本文化講座 戸叶 万里 氏



12/20【学校交流】

沖縄県立開邦高等学校



12/22【視察】沖縄県立平和祈念資料館・戦争体験講話・平和祈念公園



12/22【文化体験】エイサー体験



12/24【視察】パナソニックセンター東京



12/25【成果報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本の高校は米国と比較して大きな違いがありましたが、同じ科目もありました。沢山の人々との出会い、学校交流を満喫しました。沖縄県平和祈念資料館を訪問し、沖縄戦のことや沖縄県民が経験した苦難について学び、平和への希望とあのような悲劇を繰り返さないことについて学びました。同資料館の展示は文化と言葉の壁を超える壮大なテーマにそって企画されていました。展示されていた資料は厳選された素晴らしいものばかりでした。沖縄県民の生活が再現されていて当時の状況を良く理解することができました。記念碑は、安らぎと憩いをもたらす場でした。そこに戦没された方々の氏名が刻印され、彼らの魂が安らかに眠っていました。ホームステイは素晴らしい体験で、現代の沖縄の文化と生活習慣を多く学ぶことができました。大学生が披露した沖縄の伝統芸能は大変興味深く、楽しいものでした。すべてのプログラムを楽しむことができ、沖縄と日本の文化を肌で感じることができました。

◆ 沖縄戦の講義により知見が広がり、沖縄県民が受けてきた数々の試練について理解が進みました。学校交流では文化が異なる同世代の生徒と話すことができ、素晴らしい体験ができました。外務省での講義もとても良い経験でした。日本語講座では重要な言い回しについて学びました。ホームステイは本当に素晴らしく、非常に有益な経験でした。日本の家族や家族のあり方について学びました。文化体験は強く印象に残りました。沖縄の大学生はとても優しく、大いに歓迎してくれました。

◆ 日本語講義はとても面白く、有益でした。様々な場面で使用される日本語の表現に関し、理解が深まりました。またこのプログラムのスケールや、日米関係に対する貢献にも感激しました。学校交流は1日だけでしたが面白く、有益でした。朝礼では琉球舞踊や、心に残る木琴演奏、校歌を披露していただきました。美術のクラスで木版スタンプを作る企画は難しかったですが、楽しい経験でした。この高校での生徒の日常生活を垣間見ることができ、とても印象的でした。ホームルームでは、生徒同士そして先生と生徒が友好的に接していることに驚きました。最後の授業は、音楽のクラスでした。ピアノやクラリネット等の楽器を弾く生徒のスキルが見事でした。朝の集会で見た伝統的舞踊は複数で協力し合いながら行うグループワークでしたが、それ以外ではグループワークが見られなかったのも、私の見方が間違っているかもしれませんが、日本の学校はグループ学習より、個人学習に焦点を当てていると思いました。ホームステイプログラムに非常に心を打たれました。ホストファミリーには大変お世話になり、水族館やお店など様々な場所に連れていってくださり、生涯残る思い出をつくってくれました。沖縄県平和祈念資料館で聞いた沖縄戦の講話で沖縄県民が経験した様々な苦難について知り、身の毛がよだつ思いがしました。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流参加学生

このプロジェクトでアメリカを訪問し、カーティス高校の生徒と交流を持った時から私たちの高校に皆が来てくれるのをとても楽しみにしていました。カーティス高校

の皆はアメリカでの交流時に比べとても静かでしたが、話すうちにクラスの皆とも打ち解けることができました。私は、ホームステイも受け入れをしていたので、週末と一緒に過ごすこともできました。ゲームをしたり買い物に行ったりしてたくさん話すことができ、お互いに興味を深めることができました。アメリカと沖縄の距離はとても大きくてなかなか会えませんが、SNS でつながっていきたいです。

◆ 学校交流参加学生

私はカケハシ・プロジェクトを通して人と交流すること、相手の文化を知り、自分の文化を知ってもらうことはとても素晴らしいことだと思いました。最初は緊張していた学校訪問やホームステイも今ではとても楽しい思い出です。そこで学んだことは、アメリカと日本の違いと人の温かさでした。それぞれの違いを受け入れて相手の良いところを自分にも取り入れると互いに良い関係を築くことができると思います。私は、今回学んだたくさんのことを糧にして、学校生活や日常生活をより豊かなものにするだけでなく、これからもカーティス高校の皆さんと交流を続けてアメリカと日本の交流にもつながると良いと思います。今回このような機会をいただいたことに感謝しながら自分ができること、SNS での発信、日本文化を伝える交流を続けていきます。

6. 参加者の対外発信

	
カケハシ・プロジェクトについての発信 (Facebook) 天候、文化が魅力的で人々は友好的でした。沖縄に来ることができ本当に幸せです。正直なところ、全体のプログラムを通して平和祈念資料館への訪問は、最も有意義な経験の 1 つになりました。沖縄戦の戦いに関する講話を通して沖縄県民の苦しみを知り、平和に対して新しい捉え方をするようになりました。私が学んだ最も重要なことは、沖縄は美しいリゾート地に見えますが、75 年たった今でも戦争の爪痕が深く残っていて、私達は将来にわたって戦争が起きないように平和へ	ホームステイについての発信 (Instagram) ホストファミリーに国際通りに連れてってもらい、そこで伝統的な沖縄民族衣装を着ました。この伝統的衣装はとても美しく、(着るのに非常に時間を要しましたが)、沖縄文化の一端に触れることができ嬉しかったです。アメリカの古典的な服とは全然違います。

の努力を怠ってはいけないということです。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

Action Plan -Speech and Skit Contest

- Why:

To show our experiences during the Kakehashi homestay program

- When:

In March, at the JIS festival and during rehearsals

- Who:

Skit members, teacher, speakers, Kyushu College students

- To Whom:

Friends, family, and those participating at the festival.

- What (are we doing):

Participate at the JIS Festival

- How (how are we doing it):

Perform a skit representing the Japanese and Okinawan culture

アクション・プランの発表（グループ1）

ホームステイプログラムで体験したことを共有するため、3月に行われる JIS フェスティバルとそのリハーサルにて、スキットメンバー、先生、スピーカー、九州の大学生が友人や家族やフェスティバルの参加者に向けて日本と沖縄の文化を象徴する寸劇を行う。

アクション・プランの発表（グループ2）

3月に行われるカーティス高校の文化集会で全校生徒に対してエイサーや和太鼓のパフォーマンスを企画する。パフォーマンスには地元でエイサーや和太鼓披露のプロとコラボして、又は日本語クラブの生徒だけで、太鼓の演奏やエイサーの踊りを披露して、日本文化を広める。